

e- ビジネス論

担当者 伊田 昌弘

開講時期 後期

単 位 2

●講義の概要

講義では、最初に「eビジネス」と「eコマース」の違いについて概観を理解する。次に、「電子マネー」・「電子商取引」の現状、及びそれらが企業経営、流通、金融、生活に及ぼす衝撃と将来展望について、「シンギュラリティ」の議論をベースに展開していく。そして、「eビジネス」の多彩な顔を理解するために、「IoT」や「3Dプリンター」、「シェアリングエコノミー」、「5G問題」、「AIタクシー」、「遠隔医療」、「スマートシティ」、「越境EC」などの具体的ケースを通して、最新の動向についても触れる予定である。また、世界を制するプラットフォーム企業（GAFA VS BATH）についても考察する。最後に、「第4次産業革命」「世界の覇権交代」などeビジネスによってもたらされる歴史的な位置づけについて、理解を深める。

●講義の到達目標

地球ワイドで爆発的に拡大する「インターネット」。その上で広がる「eビジネス」。21世紀の中盤に「eビジネス」や「インターネット経済」が社会経済の主導的な役割をにない、私たちの生活を全面的に変革する時代が訪れる。その変革は、産業革命以来といわれる。本講義の到達目標は、eビジネスとはなにか、現在の産業社会に与える影響、今後の展望を考察し、産業構造と社会の変化を理解できることにある。

●講義計画

- 第1回 eビジネスについて（eコマースとの違い、対象領域の確認）
- 第2回 拡大するeビジネス（ECの展開、情報に関する時間と距離）
- 第3回 シンギュラリティのビジネス（ビッグデータとAI）
- 第4回 IoTと3Dプリンター（M2M、任天堂のケース）
- 第5回 シェアリングエコノミー（Uber、Airbnb）
- 第6回 AIは仕事を奪うか？（オズボーンの衝撃、生産性と労働参加率）
- 第7回 eビジネス最前線①（5G、AIタクシー、遠隔医療）
- 第8回 eビジネス最前線②（越境EC、スマートシティ）
- 第9回 伝統産業とeビジネス（日本酒のケース）
- 第10回 世界を制する「プラットフォーム企業」（自社展開VSパートナー展開）
- 第11回 GAFA①（グーグル、アマゾン）
- 第12回 GAFA②（フェイスブック、アップル）
- 第13回 BATH①（バイドゥ、アリババ）
- 第14回 BATH②（テンセント、ファーウェイ）
- 第15回 コロナ禍とeビジネス（巣ごもり需要とデジタル財）

●成績評価基準と方法

授業への参加度（30%）、授業中の発表（30%）、ディスカッション（40%）を通して総合的に評価。

それぞれの項目に対して、eビジネスに関する新しい事象について、質問及び意見を出し、着眼点（ビジネスモデルの構築や理論展開など）について評価します。

●テキスト又は参考文献

伊田昌弘他監修「未来の多国籍企業」文真堂2020

伊田昌弘監修「経営と情報の進化と融合」税務経理協会2014

●受講上の留意点

受講生の関心やeビジネスの進展などにより若干の変更がありうる。